

## 「訪日外国人旅行者のサステナブルツーリズムへの意向と沖縄観光」について

沖縄振興開発金融公庫調査部は、標題について取りまとめましたのでリリースします。なお、本報告のとりまとめにあたり、(株)日本政策投資銀行(以下、「DBJ」と(公財)日本交通公社(以下、「JTBF」)の「DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査(第3回 新型コロナ影響度 特別調査)」の調査データの提供を受けております。データの分析については、当公庫が単独で実施しているものです。

今後、「公庫レポート」を発売し関係機関への配布を予定しております。

・「サステナブルツーリズム」は、国連世界観光機関(UNWTO)にて、「訪問客、業界、環境および訪問客を受け入れるコミュニティのニーズに対応しつつ、現在および将来の経済、社会、環境への影響を十分に考慮する観光」と定義されており、日本では「持続可能な観光」と訳されている。  
 ・また「DBJ・JTBF アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」(以下、「本調査」という)では、「サステナブルな取組」を『地域の「自然や生物多様性の保全等」、「伝統・文化の保存・継承」、「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献への取組』と定義している。

## 調査結果の概要

## 1. 旅行先での「サステナブルな取組」に対する考え方(国別・年齢・収入層別) (図表1~2)

- ・海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際のサステナブルな取組に対する意向を国別にみると、本調査ではアジアの国々で「重視する」の選択率が高い(※1)。
  - ・地域・年代・収入層(※2)別にみると、東アジア・東南アジア居住者が全体的に重視する割合が高い。欧米豪では、若年層で収入が高い層ほど、重視する割合が高い。
- ※1 調査対象者が「海外旅行経験者」であるため(P3 調査概要参照)、特にアジア各国において、収入が比較的高く、サステナブルへの知識や意識の高い回答者が多いことも推察される。
- ※2 収入層の区分は、国・地域の回答者数を世帯年数順に三分の一ずつ区分している。

## 2. 沖縄訪問希望者の「サステナブルな取組」に対する世代別意向 (図表3)

- ・沖縄訪問希望者のサステナブルな取組に対する意向を、回答者全体と比較して世代別(※3)にみると、アジア居住者では、「重視する」「どちらかといえば重視する」の合計は、どの世代も沖縄訪問希望者の選択率が高く、特にベビーブーマーの「重視する」が高い。欧米豪居住者では、X世代・ベビーブーマー沖縄訪問意向者の選択率が全体を上回っており、ベビーブーマーの「どちらかといえば重視する」の選択率が高い。
- ※3 本調査における世代区分：Z世代(20~24歳)、ミレニアル(25~39歳)、X世代(40~54歳)、ベビーブーマー(55~59歳)。

## 3. 旅行先で「サステナブルな取組」を重視する理由 (図表4)

- ・サステナブルな取組を重視する理由は、サステナブル重視者(※4)では「環境資源の保全等に配慮したいから」が、アジア、欧米豪居住者ともに高年齢層ほど選択率が高い。また、「伝統文化等の保護継承への貢献」「地域の魅力や地元の人との交流」「訪問地域の経済活性化への貢献」は、欧米豪で高年齢層ほど選択率が高い。一方で、「補助割引制度が受けられるから」は、アジア、欧米豪居住者ともに若年層の選択率が高く、自己の利益につながる事が取組重視の理由となっている。
  - ・沖縄訪問希望者では、「環境資源の保全等に配慮したいから」の選択率がどの地域・世代ともに全体に比べて10%ポイント以上高く、取組を重視する傾向がみられる。若年層では補助割引制度の選択率が高いほか、アジア居住者では「地域の魅力や地元の人との交流」「訪問地域の経済活性化」も選択率が高い。
- ※4 海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際、サステナブルな取組を「重視する」または「どちらかといえば重視する」と回答した人

## 4. 旅行先で実施したい「サステナブルな取組」 (図表5)

- ・サステナブル重視者は、多くの項目で高年齢層の選択率が高く、欧米豪居住者では大半の項目で選択率が高い。一方「地域エコポイント等の取得・利用」については、若年層の方が高く、前項と同様に自己の利

益と結びついている傾向がある。

- ・沖縄訪問希望者は、アジア・欧米豪居住者ともにサステナブル重視者と比べて全般的に選択率が高い。アジア居住者の Z 世代及びミレニアルでは「ゴミ分別・削減」は 6 割を超え、Z 世代で「エコラベルがついている商品の購入」、ミレニアルで「自然や資源を損なわないアクティビティ」「現地産やオーガニック食材を使った商品の利用」も 5 割以上と高い。

#### 5. 宿泊施設に求める「サステナブルな取組」

(図表 6)

- ・サステナブル重視者は、多くの項目で高年齢層になるほど選択率が高く、欧米豪居住者でその傾向が顕著にみられる。なお、アジア居住者では「空き家や古民家の活用・リノベーション」の選択率が若年層ほど高い。
- ・沖縄訪問希望者は、多くの設問でサステナブル重視者より選択率が高く、特に「食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル」については、アジア居住者では全世代、欧米豪居住者でもミレニアル、X 世代、ベビーブーマーで 5 割を超えている。

#### 6. 「サステナブルな取組」による宿泊単価の値上げへの許容度

(図表 7)

- ・サステナブル重視者は、アジア居住者では全世代で 6 割超が「よいと思う」と回答、欧米豪居住者もベビーブーマー以外の世代で 6 割以上が「よいと思う」と回答している。また世代別では、アジア・欧米豪居住者ともに若年層の方が高く、特にミレニアル世代が高い。
- ・沖縄訪問希望者とサステナブル重視者で宿泊単価の値上げの許容度の差はほとんどないが、全ての世代で 6 割以上が「よいと思う」と回答している。

#### 7. まとめ ～沖縄に求められる「サステナブルへの取組」～

(事例紹介 P9～11)

- インバウンドの本格的な再開にあたり、アジアからの訪日旅行希望者にもサステナブルへの意識が高い層がいることや、サステナブルな取組に関心の高い沖縄訪問希望者がいる、ということ認識する必要がある。
- 「サステナブルな取組」を行う目的は、「沖縄の地域資源(自然環境、伝統・文化等)を次の世代に残しつつ、観光で地域を豊かにすること」。事業者だけではなく、県民も含め地域全体で「自分ごと」として考え、各々ができることに取り組むことが、国や沖縄県が目指す「持続可能な観光地域づくり」に繋がるものと思料。

- ・「サステナブル」「サステナブルツーリズム」に関する意識調査は、世界中で様々な機関が実施しているが、概ね欧州諸国が上位を占め、日本をはじめアジア諸国の順位は低い傾向がある。しかし本調査では、アジア居住者のサステナブルへの意識が高い傾向がみられた。本調査がインターネット調査であることや、調査対象者が海外旅行経験者であることから、各国の中では比較的年収や学歴が高く、サステナブルへの知識が高い層が多いと推測しうるが、訪日旅行ができるのは相応の所得層と考えれば、受入側としては、欧米豪はもちろん、アジアからの訪日旅行者にもサステナブルへの意識が高い層がいることを認識しておく必要がある。
- ・さらに本調査では、沖縄訪問希望者には、「サステナブルな取組を重視する者」よりもさらにサステナブルな取組への関心が高い傾向がみられた。沖縄訪問希望者は「沖縄＝ビーチリゾート(自然環境が観光資源)」というイメージを持つ人も多いと推測されることから、サステナブルな取組への期待も高いと思料される。
- ・沖縄県内には、サステナブルな国際認証基準を取得する等、高いレベルのサステナビリティの取組を行っている自治体や事業者がいるが、取組を実践している方々に共通するのは、「地域資源を次の世代に残すことを意識しながら、観光で地域を豊かにすること」を目標・目的としている点である。
- ・観光庁が公表した「観光立国推進基本計画」改定案(対象年度 2023 年～25 年度)では、「持続可能な観光地域づくり」が柱の 1 つである。観光は、コロナ禍を経た現在そして将来に渡り、日本の成長戦略の柱、地域活性化の切り札と位置付けられており、観光立国・沖縄も同様である。「サステナブルツーリズム」は、冒頭の定義のとおり、自然環境はもちろんのこと、地域社会や経済活動への影響も配慮した幅広い概念であり、地域全体に関わるものである。事業者や自治体、そして県民が「サステナブルな取組」を自分ごととして捉え、各々ができることを考え実践していくことが大切であり、このような取組が地域全体で行われることが、「サステナブルな社会」や「質の高い観光地」の形成に繋がるものと考え。

[調査内容についての問い合わせ先]

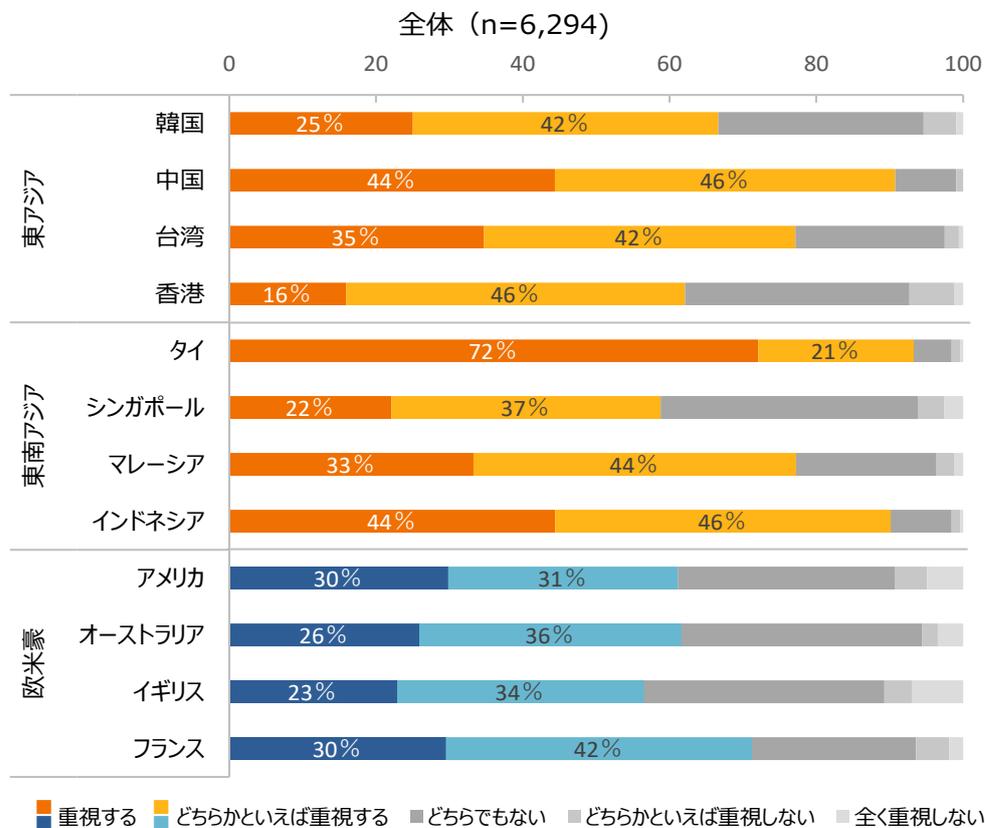


調査部 地域連携情報室(担当:伊東)  
沖縄県那覇市おもろまち 1-2-26  
電話:098-941-1853

## データ提供を受けた調査の概要

調査名：DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査  
 (第3回新型コロナ影響度特別調査) <2022年2月公表>  
 調査実施者：株式会社日本政策投資銀行(DBJ)・公益財団法人日本交通公社(JTBF)  
 調査方法：インターネット調査  
 実施時期：2021年10月5日～2021年10月19日  
 調査地域：韓国、中国(上海・北京のみ)、台湾、香港、タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、アメリカ、  
 オーストラリア、イギリス、フランスの12地域  
 調査対象者：20歳～59歳の男女、かつ、海外旅行経験者  
 有効回答者数：上記各地域に居住する住民計6,294人

図表1 海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際にサステナブルな取組を行っていることへの意向(重視するか)

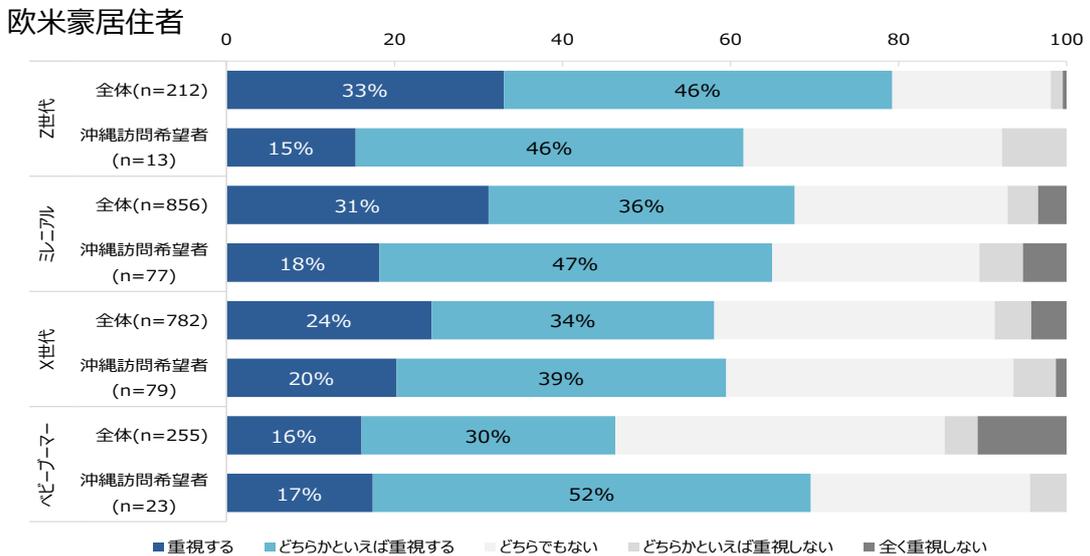
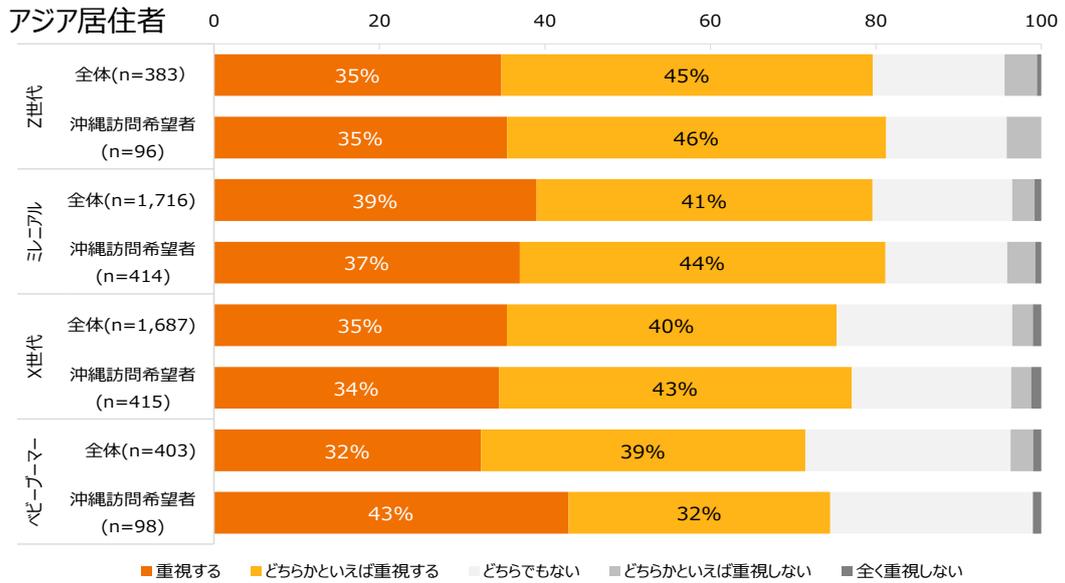


図表2 サステナブルな取組を「重視する」、「どちらかといえば重視する」の地域別・年代別・収入者層別構成

全体	収入者層			東アジア居住者			欧米豪居住者		
	低収入者層	中収入者層	高収入者層	低収入者層	中収入者層	高収入者層	低収入者層	中収入者層	高収入者層
20代	76.1	77.9	79.4	71.1	75.4	73.9	69.4	75.7	79.8
30代	74.8	74.5	76.8	77.5	76.7	76.1	62.7	63.5	72.8
40代	66.4	73.2	74.5	76.8	81.6	74.1	46.2	60.4	66.4
50代	57.6	66.2	67.9	62.0	70.1	75.8	50.3	54.3	50.3

注1:本調査における「収入者層」の区分は、国・地域の回答者数を、世帯年収順に三分の一ずつ分けたものである。

図表3 沖縄訪問希望者の「サステナブルな取組」に対する世代別意向（全体との比較）



図表4 旅行先でサステナブルな取組を重視する理由

アジア居住者

サステナブルな取組重視者(注2)	Z世代 (n=305)	ミレニアル (n=1366)	X世代 (n=1270)	ベビーブーマー (n=288)
環境資源の保全等に配慮したいから	50%	49%	56%	64%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	49%	52%	50%	57%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	42%	40%	40%	41%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	35%	33%	30%	31%
補助割引制度が受けられるから	23%	23%	17%	15%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	22%	27%	25%	28%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	23%	29%	26%	23%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	26%	30%	26%	24%

注2: 海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際、サステナブルな取組を「重視する」または「どちらかといえば重視する」と回答した人

沖縄訪問希望者

	Z世代 (n=78)	ミレニアル (n=336)	X世代 (n=320)	ベビーブーマー (n=73)
環境資源の保全等に配慮したいから	65%	61%	69%	73%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	56%	65%	61%	63%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	50%	48%	45%	45%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	37%	37%	31%	36%
補助割引制度が受けられるから	28%	21%	17%	21%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	24%	30%	33%	27%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	22%	27%	28%	32%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	31%	28%	28%	33%

欧米豪居住者

サステナブルな取組重視者

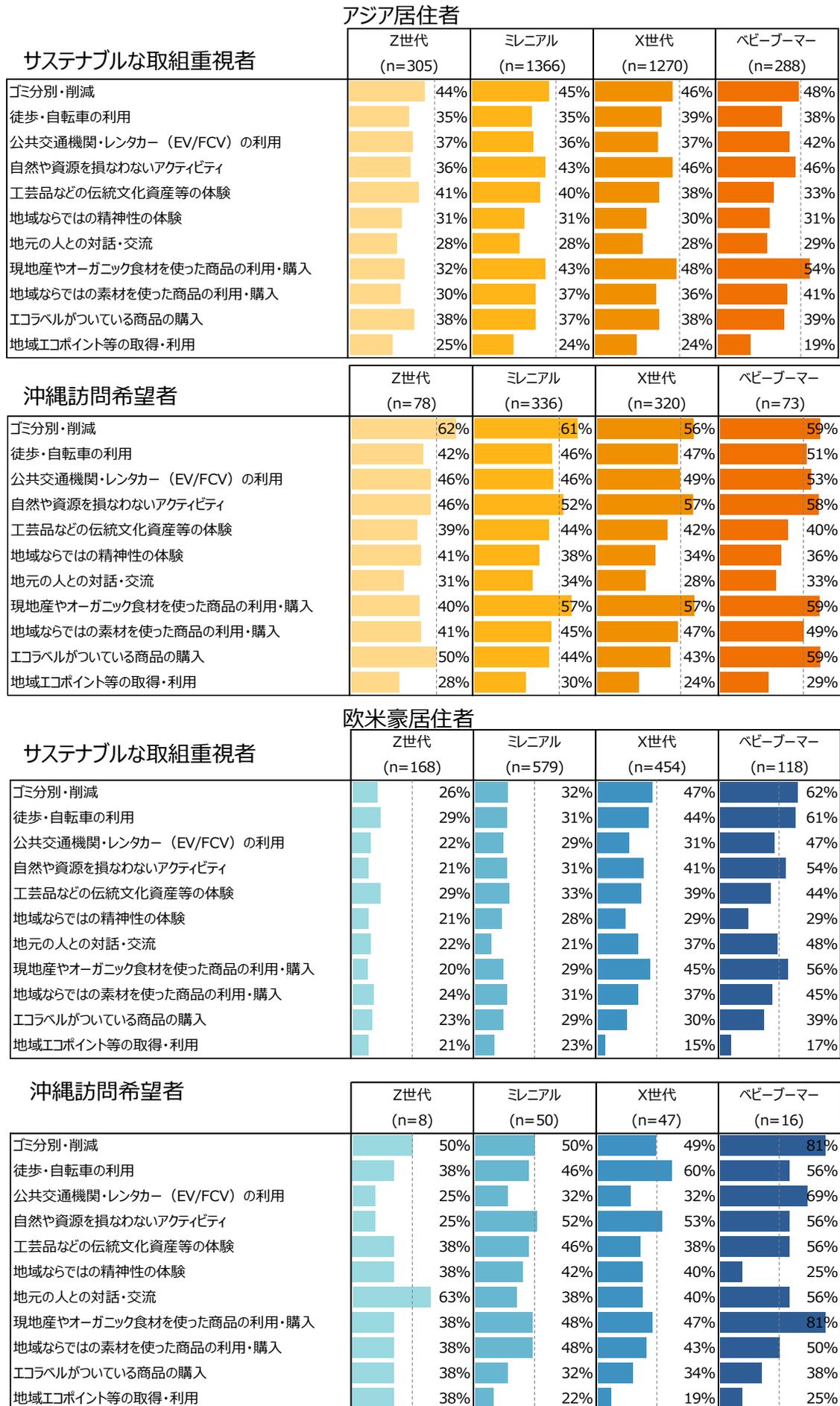
	Z世代 (n=168)	ミレニアル (n=579)	X世代 (n=454)	ベビーブーマー (n=118)
環境資源の保全等に配慮したいから	36%	40%	46%	58%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	33%	37%	47%	48%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	25%	32%	40%	43%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	29%	29%	34%	38%
補助割引制度が受けられるから	15%	16%	13%	8%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	16%	21%	21%	17%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	21%	21%	19%	20%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	15%	22%	22%	15%

沖縄訪問希望者

	Z世代 (n=8)	ミレニアル (n=50)	X世代 (n=47)	ベビーブーマー (n=16)
環境資源の保全等に配慮したいから	50%	50%	57%	88%
訪問地域の伝統文化資産等の保護継承に貢献したいから	50%	48%	45%	56%
地域の魅力や地元の人との交流を味わいたいから	25%	48%	45%	56%
訪問地域の経済活性化に貢献したいから	50%	40%	45%	38%
補助割引制度が受けられるから	25%	16%	11%	6%
サステナブルツーリズムがトレンドだから	38%	20%	17%	19%
自国や自治体がサステナブルな取組を推奨しているから	13%	12%	19%	25%
旅行先がサステナブルな取組を推奨しているから	50%	26%	21%	13%

注3: 欧米豪居住者の沖縄訪問希望者は回答者数が少ないため読み取りに注意、以下の図表も同じ。

図表5 旅行先で実施したいサステナブルな取組



注4:EVは電気自動車、FCVは燃料電池自動車(水素と酸素で発電)

図表6 宿泊施設に求めるサステナブルな取組

アジア居住者

サステナブルな取組重視者	Z世代 (n=305)	ミレニアル (n=1366)	X世代 (n=1270)	ベビーブーマー (n=288)
再生エネルギーの利用	40%	39%	46%	52%
省エネ・節電の取り組み	44%	45%	51%	54%
リサイクルボックスの設置	37%	34%	36%	40%
部屋のクリーニングの廃止	12%	14%	12%	13%
アメニティの廃止	22%	20%	21%	21%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	35%	38%	38%	41%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	42%	45%	49%	46%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	36%	41%	42%	39%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	33%	33%	30%	28%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	30%	33%	35%	33%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	36%	39%	43%	49%
空き家や古民家の活用・リノベーション	33%	30%	22%	20%

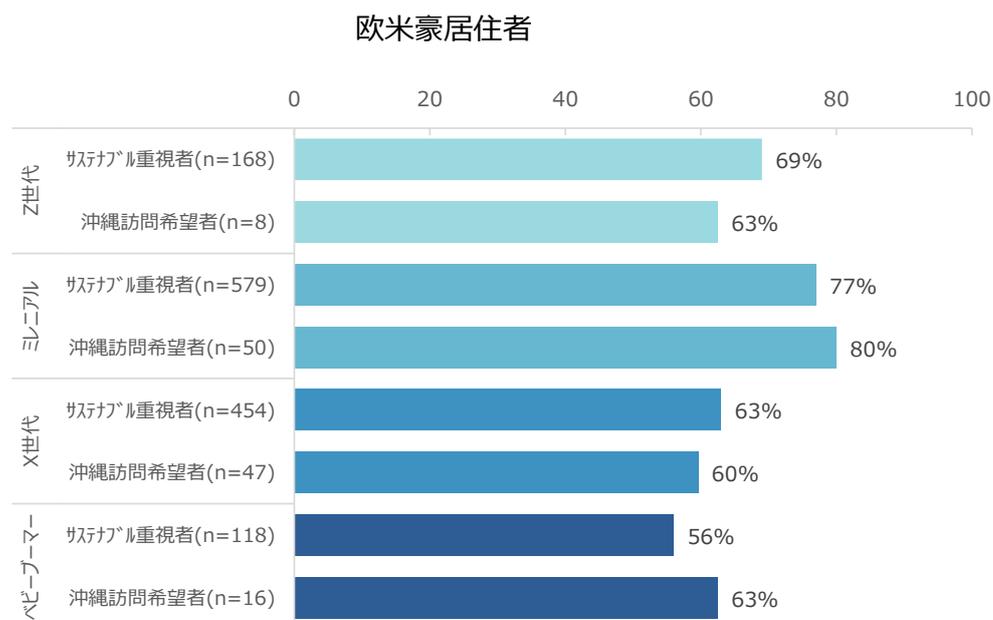
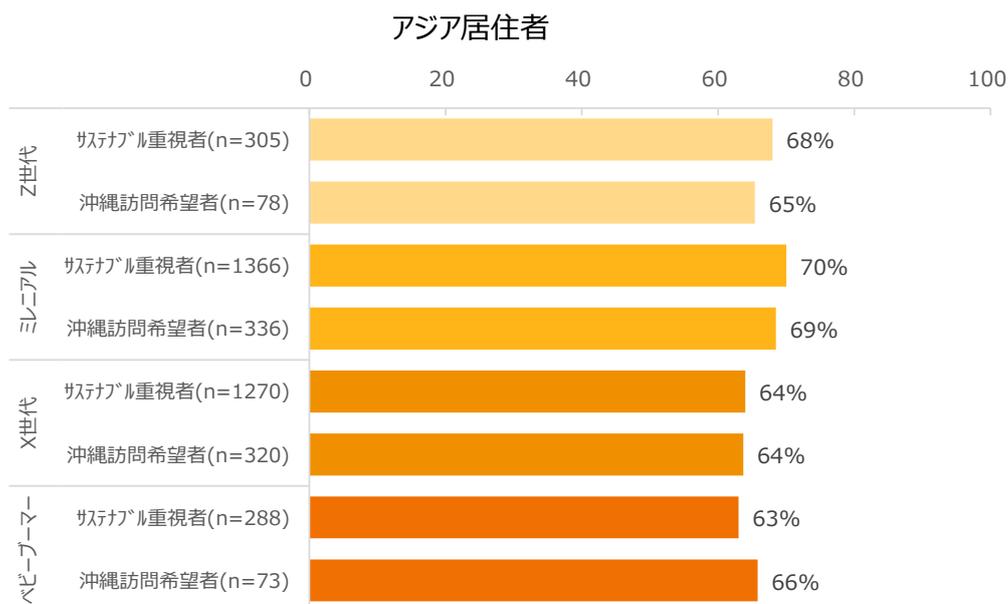
沖縄訪問希望者	Z世代 (n=78)	ミレニアル (n=336)	X世代 (n=320)	ベビーブーマー (n=73)
再生エネルギーの利用	58%	52%	58%	63%
省エネ・節電の取り組み	58%	55%	63%	60%
リサイクルボックスの設置	49%	43%	47%	55%
部屋のクリーニングの廃止	10%	16%	14%	15%
アメニティの廃止	30%	27%	25%	29%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	41%	50%	48%	47%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	54%	54%	61%	55%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	42%	49%	48%	55%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	36%	37%	29%	34%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	40%	42%	42%	41%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	41%	51%	52%	53%
空き家や古民家の活用・リノベーション	41%	36%	28%	23%

欧米豪居住者

サステナブルな取組重視者	Z世代 (n=168)	ミレニアル (n=579)	X世代 (n=454)	ベビーブーマー (n=118)
再生エネルギーの利用	25%	27%	45%	62%
省エネ・節電の取り組み	21%	29%	46%	62%
リサイクルボックスの設置	22%	28%	40%	51%
部屋のクリーニングの廃止	12%	16%	17%	19%
アメニティの廃止	9%	15%	11%	11%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	27%	26%	31%	32%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	3%	33%	45%	56%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	17%	28%	36%	43%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	23%	29%	31%	25%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	34%	34%	30%	45%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	24%	32%	42%	52%
空き家や古民家の活用・リノベーション	19%	22%	20%	25%

沖縄訪問希望者	Z世代 (n=8)	ミレニアル (n=50)	X世代 (n=47)	ベビーブーマー (n=16)
再生エネルギーの利用	25%	48%	53%	88%
省エネ・節電の取り組み	38%	44%	55%	88%
リサイクルボックスの設置	50%	50%	55%	81%
部屋のクリーニングの廃止	13%	18%	32%	31%
アメニティの廃止	13%	26%	9%	6%
リサイクルできる備品・アメニティの導入	75%	42%	40%	44%
食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル	13%	52%	51%	56%
自然等に配慮されているアクティビティ体験の提供	25%	42%	45%	56%
工芸品などの伝統文化資産等の体験の提供	50%	48%	26%	19%
地域ならではの素材の活用や商品の提供	25%	50%	38%	38%
現地産やオーガニック食材を使った食事の提供	25%	38%	62%	56%
空き家や古民家の活用・リノベーション	50%	34%	21%	25%

図表7 サステナブルな取組による宿泊単価の値上げへの許容（「よいと思う」と回答した割合）



## 事例紹介<沖縄県内のサステナブルツーリズムへの取組>

### ① 恩納村 ダイビングショップの国際認証基準の取得

- ・恩納村は、2020年4月に環境に優しく持続可能なダイビング・シュノーケリングの国際的なガイドライン「Green Fins（グリーン フィンズ）」を、世界で初めて自治体として導入することを発表した。Green Fins は、国連環境計画（UNEP）とイギリスの Reef World 財団によるサンゴ礁保全の取組みで、環境に配慮したダイビングやシュノーケリングのガイドラインの作成と、それを遵守しているダイビングショップの評価・認定を行っている。恩納村では、2022年にGreen Fins 認定人（アセサー）と認定店の誕生に向けたトレーニングを日本で初めて実施し、日本人アセサーと認定店が誕生した。
- ・Green Fins 公式サイトでは、世界中の認定店の検索ができ、2023年2月末時点で恩納村には9つの認定店があり、うち4施設がシルバーランク、5施設がブロンズランクである（ゴールド、シルバー、ブロンズの3ランク）。

**GREEN FINS**  
 FIND A MEMBER | LEARN | JOIN | NEWS & MEDIA | PARTNERS | ABOUT

FREE MATERIALS | LOGIN

**PROTECTING CORAL REEFS THROUGH SUSTAINABLE TOURISM**  
 Green Fins Members (dive centres, snorkelling centres, liveaboards) protect and conserve coral reefs by following environmental guidelines that promote a sustainable diving and snorkelling industry.

**DIVE WITH A GREEN FINS MEMBER**

DESTINATION: [ ] SEARCH RADIUS: 500 KM

CERTIFIED BRONZE MEMBER  CERTIFIED GOLD MEMBER  CERTIFIED SILVER MEMBER  DIGITAL MEMBER

SEARCH

**ONNA-SON**

 <b>ANA INTERCONTINENTAL MANZA BEACH RESORT</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: ana.intercontinental-manza.jp 096-958-3207	 <b>BENTHOS DIVERS</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: benthos.info 096-959-0405	 <b>NEWS ONNA BRUNCH</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: onna.news.onna-son.com 096-953-8583
 <b>TAKE DIVE</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: take-dive.jp 096-953-0244	 <b>D.S. ARCHANGEL</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: ds.archangel.jp 096-957-2864	 <b>HALEKULANI OKINAWA</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: okinawa.halekulani.com 096-953-8400
 <b>MARINE CLUB NAGI</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: nagiclub.jp 096-953-0028	 <b>OKINAWA DIVING SERVICE LAGOON</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: lagoon-diving.com 096-959-0218	 <b>TRUE NORTH OKINAWA</b> CERTIFIED BRONZE MEMBER Onna-son, Japan Contact info: okinawa.trueorth.jp 096-979-8455

**Browse Green Fins members for your next trip**

出典：GREEN FINS ホームページ <https://greenfins.net/> , <https://greenfins.net/countries/japan/>

事例紹介<沖縄県内のサステナブルツーリズムへの取組>

② Booking.com の「サステナブル・トラベル」プログラム認証

- 世界最大級の宿泊予約サイトの Booking.com(ブッキング・ドットコム) の日本法人、ブッキング・ドットコム・ジャパンでは、2021 年より「サステナブルな取組」を行う宿泊施設が可視化される認証制度を導入している。Booking.com のサイトから沖縄県内の「サステナブル・トラベル」プログラム登録施設を検索すると、約 400 施設の登録が確認できるが、このうち最近登録されたヴィラタイプの宿泊施設の取組を紹介する。
- 2022 年に宮古島市に開業した一棟貸の宿泊施設「ヴィラアパラギ宮古島」は、「サステナブル・トラベル」プログラム制度取得の取り組み過程では最高レベルに当たる「レベル 3」を取得していたが、このほど同プログラム制度の認証を取得した。
- 当施設は「宮古島の綺麗な海」という観光資源を基に集客しているため、旅行者によってその観光資源に悪影響を与えることは極力避けなければいけないとの意識を持っている。加えて、沖縄は「綺麗な海」だけではなく、地域に住む人や働く人の魅力も大きいと考えており、沖縄にお金が落ちるよう、できるだけ沖縄産(宮古島産)を導入することを心がけている。

<当施設のサステナブルな取組の一例>

- 非対面のチェックインシステム
- 竹製ハブラシ導入、使い捨てシャンプー等を不使用し廃プラスチックの削減に努めている。
- サンゴ礁保護のため沖縄生まれの「サンゴに優しい日焼け止め」をアメニティとして提供しているほか、フェイス・ボディソープやウォーターサーバーでも、沖縄県産や宮古島産を導入。
- アクティビティ体験希望者に対しては、地元事業者と連携し、現地ツアーを紹介
- 心や身体にハンディのあるアーティスト支援をする団体の賛助会員に加盟

「サステナブル・トラベル」プログラムのレベルについて

取り組みを追加することで、次のレベル達成を目指すことができます。また、旅行者の70%\*はあらかじめサステナブルな宿であると知っていたら、その宿を予約する可能性が高まると回答しており、取り組みの追加をすることでそのようなユーザー層へのアプローチに役立ちます。



出典：2022 年 11 月 22 日発表  
ブッキング・ドットコム、新たに 3 つの  
認証レベルを導入

<https://news.booking.com/ja/sustainable-travel-program/>



「サステナブル・トラベル」プログラムの宿泊施設  
この宿泊施設は、よりサステナブルな滞在を提供する  
ています。

出典：ヴィラアパラギ宮古島ホームページ <https://www.villa-aparagi.com/>

出典：ブッキングドットコム  
ヴィラアパラギ宮古島サイト  
<https://www.booking.com/hotel/jp/vuiraaparagi-gong-gu-dao.ja.html>

### ③ やんばる地域の自然や伝統文化を観光資源として活用した地域体験事業

・2022年8月、国頭村に「やんばるホテル南溟森室(なんめいしんしつ)with NIPPONIA」がグランドオープンした。  
当ホテルは、国頭村の謝敷集落及び大宜味村の喜如嘉集落の空き古民家を再生した分散型の宿泊施設で、滞在を通して昔ながらの沖縄の伝統的な暮らしや、暮らしと結びつく沖縄の自然を知ってもらうことを目的としており、滞在時に楽しめる様々なアクティビティを提供している。

当ホテルを運営する(株)Endemic Garden H 代表の仲本いつ美氏は、国頭村生まれ。国頭村役場で地域の課題解決に取り組んできたが、観光で地域の課題を解決したいとの思いを強くし、やんばる地域限定の旅行社を立ち上げ、地域と観光客を繋げるコーディネーターとして活躍している。当社では、地域の住民や事業者と連携し、地域の本質的な魅力を伝え、地域経済の活性化や関係人口の増加に貢献することを目指している。

#### ・「with NIPPONIA」について

NIPPONIA は、「なつかしくて、あたらしい、日本の暮らしをつくる」というミッションのもと、土地に息づく歴史・文化資源を活用しながら次世代に繋げていく取組であり、(株)NOTE（本社：兵庫県丹波篠山市）が展開している。当ホテルは、沖縄県内で初めて NIPPONIA と連携した宿泊滞在施設である。



シェルパについて

シェルパとは、訪れる人の旅をローカルな知識とネットワークでサポートする水先案内人。  
旅人の半歩先を歩き、知らなければ通り過ぎてしまう土地の魅力を伝え、  
文化を担う人との出会いを呼び込みます。  
南溟森室では、シェルパが旅程のコーディネートからお手伝いいたします。

出典：やんばるホテル南溟森室ホームページ <https://yambaru.co.jp/>



やんばるホテル南溟森室「久志」  
写真：当社提供